

講義コード	513136501	
講義名	地域福祉活動論	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	月曜日	
代表時限	5時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教科に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	久野 高志	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

1) 授業の概要

地域福祉の概念と国内外の実際を理解し、子ども、障がい者が暮らしやすい地域づくりとそのための活動について学ぶ。また、地域福祉活動の具体例や政策から、特に子どもとのかかわりにおける地域福祉活動の実際とニーズについての基礎知識を習得する。
講義による学習とグループワークによる実践とを組み合わせます。

2) 授業の方法

① プレゼンテーションの方法

配布印刷物、板書、視聴覚メディアなどによりすすめる。

② 授業形態

講義型式を中心とし、「建築物移動等円滑化チェックリスト」等をもとに、学内の建築物や設備についての適合度を検証するなどのグループワーク等も実施する。

③ アクティブラーニングの有無

受講人数にもよるが、ユニバーサルデザインの概念を学んだ後に、学内の設備、備品、日用品などから、その適用例をグループで探し、発表する。そもそもユニバーサルデザインとバリアフリーの考え方の違いとはなんなのか。グループで議論し、ユニバーサルデザイン概念への理解度を深めていきたい。

④ 課題に対するフィードバックの方法

グループワーク等のまとめに対し、授業内にてコメント・解説を行う

授業の到達目標及びテーマ

地域福祉の概念と国内外の実際を解説した上で、子ども、障がい者、高齢者、国籍等の別なくすべてのひとが暮らしやすい地域づくりとそのための活動について学ぶ。また、最新の地域活動情報を適宜提供し、特に子どもとのかかわりにおける地域福祉活動の実際とニーズについて理解するための基礎知識を身につける。到達目標については、学習成果における①保育者観、②知識・技能、③実践力と実践能力、④人間性と協働性が該当する。特に①②を重視する。

また、本科目は、幼児教育科のディプロマ・ポリシー「2. 諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている」と、「を達成するための科目である。」

授業計画表

回	担当教員
第1回	ガイダンス：地域福祉の概念
第2回	地域福祉の歴史的展開と発展(1) (戦前、戦後)
第3回	地域福祉の歴史的展開と発展(2) (地域福祉への展開)
第4回	地域福祉の歴史的展開と発展(3) (社会福祉制度改革)
第5回	ユニバーサルデザイン(1) (概要)
第6回	ユニバーサルデザイン(2) (原則、問題点と注意点)
第7回	図書館とユニバーサルデザイン
第8回	書館の児童サービスと地域福祉(1) (意義、読書の重要性)

第9回	図書館の児童サービスと地域福祉(2) (児童サービスの具体例)
第10回	図書館の障がい者向け資料(1) (種類)
第11回	図書館の障がい者向け資料(2) (資料変換、具体例)
第12回	図書館の障がい者向け資料(3) (点字資料)
第13回	図書館の障がい者向け資料(4) (盲ろう者のコミュニケーション)
第14回	「インクルージョン」の概念 (インクルーシブ保育・教育について)
第15回	ボランティア (原則、意義、推進策、コーディネーション)
第16回	定期試験

授業時間外の学修

プリント教材を配布し授業をすすめる。プリント教材と授業での解説を復習として、ノートにまとめること。30分程度を想定している。授業の最後に、次回講義テーマをお知らせします。新聞やテレビのニュース等でテーマや、「地域」「福祉活動」といったキーワードに関わる事項を意識すること。その上で、関心を持ったテーマについては、予習として各自で関連事項等を調査し、授業にキーワードとして提案してみよう。15分程度を想定している。

実務経験の有無

ディプロマポリシーとの関連

ディプロマポリシー①③	ディプロマポリシー②	ディプロマポリシー④	ディプロマポリシー⑤⑥
自律学習能力の修得	専門的知識・技術の修得	分析・論理構成・表現力の修得	問題解決能力・協働性の獲得
◎	◎	○	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容がほぼ完全に理解できており、ノート、配布プリントのまとめも素晴らしい。	授業内容を90%程度理解できており、授業内での適切な発言がみられる。	授業内容を75%程度理解できており、授業内での問いかけに対し、ほぼ期待した反応がある。	授業内容の理解が60%以下であると思われ、レポートや発表等への手厚い助言が必要である。
取り組み	授業内での調査やグループワークに積極的な姿勢で取り組み、とりまとめにも大きく貢献している。また指示した予習、復習が良くできている。	自ら取り組みようとする姿勢がみられ、不明な点がある場合はそのままにせず、質問できる。	同じクラスの受講生に課題内容を聞かないと取り組みえないなど、授業にぼんやりと参加している。	授業の流れから取り残されてしまっている様子がみられる。
表現力	授業内容がほぼ完全に理解できており、得られた知識をもとに、授業内での発言、課題提出がしっかりできている。	授業内容を90%程度理解できており、教員からの問いかけに適切に回答できる。	授業内容を75%程度理解できており、教員からの問いかけに概ね反応できる。	授業内容がしっかり理解できておらず、発言や発表が的はずれである。

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	70%	期末に筆記による定期試験を実施する。授業各回ごとにノートをまとめておくと良い。
小テスト等		
成果発表	10%	(受講者数によるが) 授業内での調査をグループごとに発表していただく。
授業への貢献度	10%	調査等におけるリーダーシップや授業内での発言を総合的に評価する。
レポート	10%	授業内容に関連したレポートを課すことがある。授業の配布プリントやノートを参考にまとめる形式となる。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

ム	ビデオ会議システム
	チャット
用	メール等の活用

アクティブラーニングの割合

い	授業中にアクティブラーニングの要素はあまり無
---	------------------------

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
ン	プレゼンテーション	フィールドワーク
		授業後レポート

教科書

なし

参考書

プリント資料を配布する。

SDGsとの関連

を	3. すべての人に健康と福祉
に	4. 質の高い教育をみんな
を	11. 住み続けられるまちづくり
に	16. 平和と公正をすべての人

特記事項等

- 1)実務経験のある教員
担当教員はまちづくり関連のNPO法人の理事を務めている
- 2)科目のナンバリング
SUN2406
- 3)オンライン授業の実施方法
Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。
- 4)その他の特記事項
特になし

学生へのメッセージ

日常生活で使用する商品、道具、施設等において、様々なユニバーサルデザイン概念が採用されているので、気付いたことをメモに残すなどして積極的に授業に取り込んでください。

研究室（訪問先等）

中央研究棟 2階 213研究室

平日は授業時間以外は研究室に在室していることが多いので気軽に質問・相談に来てください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

kuno@sakushin-u.ac.jp